

ま ち の う ご き	
(12月1日現在)	(11月中)
世帯数 16,903世帯	生まれた人 46人
人 口 53,044人	亡くなった人 14人
男 26,103人	転入した人 242人
女 26,941人	転出した人 220人

向日市

No.394

昭和62年1月1日

◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111



迎春

二十一世紀へ

飛躍するまち向日市

市役所屋上から南東を望む

人間性豊かな定住都市をめざして



市民のみなさん、あけましておめでとうございます。

一九八七年の輝かしい新春を、ご家族おそろいで健やかに迎えになったこと、お喜び申し上げます。

昨年、私にとりまして、市長二期目の締めくくりの年に当たり、厳しい財政状況の中、財源の確保を図り、効率的な財政運営に努め、これまで取り組んできました各種施策・事業を一層推進し、公約の実現に全力を傾注してまいりました。

とりわけ、市民スポーツの振興と交流活動の拠点として、かつ、六十二年京都国体の体操競技会場となる市民体育館の開館をはじめ向日コミュニティセンターの建設着工、学校施設の整備、幹線街路事業や上・下水道事業等の促進、また、国際平和年に当たり、世界平和都市宣言の啓蒙啓発に努め、国際交流の進展など、諸施策を推進することができました。

特に、市民体育館の開館を記念しての多彩な行事や向日市まつり、市民平和のつどいなど多くの市民のみなさんご参加のもと実施できましたことは、明日に向かって飛躍する本市にとって、意義深い年であったと存じています。

これもひとえに、市民のみなさん方のご理解とご支援のためのものであると、深く感謝を申し上げます。

今日、わが国の社会情勢は人口の高齢化、価値観の多様化など、様々な面で成熟化が進み、さらに、国際化、高度情報化社会へと大きく変動しつつあります。

しかも、急激な円高により、景気が低迷しており、かつ、国・地方を通ずる行政改革の推進という重要課題を抱え、地方自治体にとりまして、極めて厳しい状況が続いております。

このような中で、本市においては、行財政の一層の効率化と限られた財源の重点的配分により、福祉の充実を図り、市民ニーズにこたえるため、積極的に事業の推進に取り組んでいるところであります。

本年は、市制施行十五周年の節目の年を迎え、ふるさと向日市を二十一世紀に向かって明るい展望の開けるまちとするため、五万市民の生活と権利を守り、生活環境の整備された、福祉・文化・教育の充実した人間性豊かな定住都市としなければならぬと考えています。

そのためには、都市環境や生活周辺の整備を計画的に実施するとともに、自然環境を保全し、住みよいまちづくりが望まれます。また、長い歴史と伝統を有する本市が文化の香り高い都市として発展するためには、教育環境を整え、文化施策の充実が必要があると存じます。さらに、産業の活性化に努めるとともに、高齢化社会の進行に対処して高齢者の生きがい高め、福祉と健康を守る施策を推進しなければなりません。

さて、六十三年京都国体も、いよいよ来年となり、今年夏には自転車競技、秋には体操競技のリハール大会が本市で実施されます。京都国体の成功をめざして、市民が結集し、市民総参加のもとに、取り組みを強めていただくたく存じます。

「二十一世紀へ飛躍するまち向日市」のまちづくりに市民のみなさん方のご支援をお願い申し上げます。本年もみなさん方にとって、幸多い年となることをお祈りして、年頭のあいさつといたします。

向日市長 民秋 徳夫